

## 令和4年度第3回墨田区地域包括支援センター運営協議会議事要旨

■日 時：令和5年3月20日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで

■会 場：オンライン開催（事務局及び一部委員については墨田区役所13階131会議室）

■出席者（敬称略）

会長：鏡諭

委員：成玉恵、山室学、松田浩、北總光生、堀田富士子、湯川淳、鎌形由美子、岩田尚明、栗田陽、濱田康子、小谷庸夫、佐藤和信、村山厚子、福島洋子、関口芳正

事務局その他：高齢者福祉課長、福祉保健部副参事（地域包括ケア推進担当）、介護保険課長、障害者福祉課係長1名、高齢者福祉課係長・主査5名、介護保険課主査1名

■議 事

- 1 令和5年度高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室事業計画（案）について
  - ・事務局から、墨田区高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室事業実施方針及び令和5年度包括的支援事業に係る高齢者支援総合センター職員配置基準について説明を行った。
  - ・事務局から各高齢者支援総合センター（以下、センターという。）の委託料内訳（案）について説明を行った。その後、各センターから令和5年度事業計画について説明を行った。
- 2 令和4年度墨田区地域ケア会議の結果について
  - ・事務局から、令和4年度墨田区地域ケア会議の実施報告を行った。

■主な発言等

- 1 令和5年度センター・相談室事業計画（案）について
  - （質問）同愛では、人とのつながりが非常に大事だということで社会参加を促しているが、「折り紙プロジェクト」を例にとると、発信側、受信側、それぞれどれくらいの人数で実施しているか。
  - （回答）実行委員会を発信側とすると、民生委員・児童委員、児童館の館長、社会福祉協議会の職員、同愛の職員が加わり合計7名の実行委員で行っている。受信側（受け取る側）としては、近隣の学校の中学3年生、児童館の子供たちに協力してもらっている。また、地域の介護事業所の高齢者の方や、社協から紹介頂いたボランティア希望者の方で、合計約700名位の方が参加している。
  - （質問）こうめの第8期最終目標、5年度の到達点が極めて簡潔なため漠然とした印象を受ける。こういった記載では、それぞれの評価をすることも困難になるのではないかと感じる。
  - （回答）今後の活動の中で具体的にすべきところはしていき、報告する必要があると考える。
  - （意見）全てのセンター・相談室にいえることであるが、成果を十分に伝えるために将来的

な指標やメルクマール、KPIにつながるような成果の出し方を考えると良い。

(意見) 障害者で在宅療養されている方の70%が65歳以上になっており、問題が障害にとどまらず、高齢にも重なってきているので、複合的に対応してもらえるとありがたい。

(意見) なりひら圏域で、自宅での看取りの件数が増えたと聞いている。実績を件数で表してもらうと良いと思う。様々な職種の方々と事例検討を行った中で、自宅での看取りが地域に浸透してきていると感じる。

(質問) うめわかにおいて、フレイル予防に対してどのように取り組んでいく予定か。

(回答) ストップフレイルの事業の中で、担い手の支援や担い手が負担感を強く思う事なく横のつながりを持って新しい事業を立ち上げることを支援していきたいと考えている。

(質問) 口腔ケアでは治療も大切であるが、予防も大切と聞いている。

(回答) 口の中が衰えてくると全身が衰えてくるため一番初めの目安になる。さらに講演会の開催時には、会員名簿を配布し、歯科医院に行つて悪くならないようにメンテナンスをするように啓発している。

(質問) 「ぶんかカフェ事業」の中の課題として、①ケアマネジャーの自立支援の視点が不十分である ②ケアマネジャーの訪問介護、通所介護の専門性が曖昧となっているという指摘がある。これらは事例検討やケア会議から感じられた事か。

(回答) ケア会議の中から感じられたことである。また、利用者を支える事の責任や奥深さを関係者と共有ができた。

(質問) 機能強化事業で、令和5年度に人材育成でケアマネジャー連絡会と協同で合同研修をと書かれているが、各センターで上がったケアマネジャーの課題を基に企画をするということか。

(回答) すみだケアマネジャー連絡会との合同研修を予定している。包括的継続的ケアマネジメントを遂行する為の合同研修の企画で、詳細は今後ケアマネジャーあるいは各センター共に課題を共有しつつ、その課題を解決する為の研修企画と考えている。

## (2) 令和4年度墨田区地域ケア会議の結果について

(意見) 同じような活動をしている関係団体が協同して実施していくことはとても大事な視点であると考えてるので今後、検討してほしい。

(質問) 誰に対しどのように対応していくのかが具体的見みえない。資料に「参加ニーズを持ちつつも交流や活動につながらない高齢者の孤立やフレイルを防ぐため、一人ひとりの状態や個性に対応した通いの場が必要」とある。様々な機関が連携する中で、どの機関がどの程度の対象者を対応するかまで考えなければならないと思うが、現時点ではどのように考えているか。

(回答) ご指摘のとおり、具体化は必要であると認識している。活動の場所に関しては、新たに使えるようになった場所を示していくことで、成果を示しやすいと考える。活動の機会については、より大きな課題を抱えるターゲットに対し、どのような資源や、参加できる場を増やしていくかの分析を進める必要があると考える。また、介護サー

ビスの利用となっても地域での繋がりが絶えないような場についても具体的に考えていきたい。

(質問) 千葉大学が提供しているようなデータを活用することでよりよい提言になるのではないか。また、開催回数についても検討が必要ではないか。何を目的に墨田区地域ケア会議を行うのかを再度考えるべきではないかと感じる。

(回答) データ分析を活用し、今後の事業展開に活用していかなければいけないと考える。開催回数についての指摘があったが、人材の育成、場の提供、参加する機会というような問題を精査したうえで実施していければと考える。

会長：意見を提言にまとめることは、具体的な成果を少しでも出していきたいという表れである。今回、「具体的な活動を実施する以前の基本情報は十分整理されていないのではないか」「もう少し丁寧に区全体の情報を把握していく必要があるのではないか」といった意見があった。事務局はもう一度、ターゲットポイントを整理したうえで提言として頂ければと考える。

#### ■ その他

令和5年度第1回は令和5年8月4日（金）午後1時30分から開催する。